
色々雑談部屋

紀葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色々雑談部屋

【Nコード】

N8862Y

【作者名】

紀葉

【あらすじ】

紀葉とドンキーが色々雑談します。

質問に答えたり、ゲストを招くこともあるかも？

リクエストも受付中！

初めに（前書き）

とりあえず説明をば。

初めに

紀葉「どうもこんにちは。『普通で普通じゃない日常』の主人公であり、同作品で作者の一番のお気に入りキャラの八木紀葉です。」

ドンキー「ドンキーコングシリーズの主人公で、作者の嫁を超越した何かのドンキーコングです。」

紀葉「えーっとこれはですね、私達がいろいろお話したり質問に答えるという趣旨のものなんですけどね…。」

ドンキー「この企画長く続きそうにないな。」

紀葉「そういうこと言うなよ…。」

ドンキー「で、今回は何するんだ？」

紀葉「ちよつと募集したいものを言うよ。」

・質問

作者についてでも、キャラについてでも構いません。

・意見

どんな意見でもおkです。

・リクエスト

何か書いてほしいものがあれば。

紀葉「こんなもんか。」

ドンキー「需要あるのか？」

紀葉「言うな。とりあえず、何かあればこの感想に送ってください。」

ドンキー「まあ無くても何かしら書くから大丈夫だけどな。」

紀葉「では今回はこれで。さよーならー。」

初めに（後書き）

ご意見、待っています！

第1回(前書き)

ドンキー「おい紀葉、本番…あれ?どこ行った?」

紀葉「ばあ!」

ドンキー「うわっ!ビビルワァ!」

紀葉「これがホントのびっくりドンキーwww」

第1回

紀葉「どうも。紀葉です。」

ドンキー「ドンキーです。」

紀葉「さっそくだが質問に答えよう!」

ドンキー「来たのか!？」

紀葉「来たよ。」

ドンキー「マジで?」

紀葉「マジです。ではさっそく…カルピスフロートさんからドンキーに質問。」

ドンキー「俺?」

紀葉「作者とバナナならどっちが好き?とのことだ。」

ドンキー「バナナに決まってるだろ」K。」

紀葉「ですよねww」

作者涙目。

ドンキー「紀葉ならちよっと悩んだかも…。」

紀葉「へっ?」

ドンキー「でもバナナ。」

紀葉「やっぱりな…。まあ次の質問行くぞ。」

ドンキー「まだあるのか…。」

紀葉「うん。阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「作者にか。」

紀葉「なんで『普通で普通じゃない日常』を書こうと思った?とのことだ。」

ドンキー「なんか理由あるのか…?」

紀葉「作者のコメント。『実は中1の頃から普通(r yみたいな話を脳内で練り広げていて、小説家になろうを見つけているんな人の小説を読んで、せっかくだからこの物語を小説にしちゃうか!というノリで書き始めました。ちなみに、最初は紀葉、千樹、杉助、桜太郎、百合の五人で行こうとしてました。』…とのこと。」

ドンキー「中1なのに中2病か。」

紀葉「誰うまwwwよし、次ー!」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「また作者か…。」

紀葉「リリカルなのはは知ってますか？知ってたらお気に入りキャラは誰ですか？と…。」

ドンキー「あのアニメか…。」

紀葉「作者のコメント。『リリカルなのはは知ってますよ。まあニコニコから得た知識が六割ですけどねwwお気に入りのキャラはなのはです。ちなみに嫌いなのはもちろんクソ赤帽ですww』とのこと。」

ドンキー「クソ赤帽ってヴィータのことが。確かにあいつ逃走中とかで問題行動起こしまくりだもんな。」

紀葉「ホントだよね…。死ねばいいのに…。」

ドンキー「まだあるか？質問。」

紀葉「うん。しらさんから作者に質問。」

ドンキー「作者への質問多いな！」

紀葉「スマブラメンバーで一番好きなキャラ…はドンキーだと思うので、一番嫌いなキャラは？だって。」

ドンキー「俺のこと好きって言うわりには俺のことあんまり使っていないだろ作者。」

紀葉「作者曰わく、パワータイプや重量級のキャラは使いづらいんだって。」

ドンキー「練習しろよ!」

紀葉「まあそれはおいといて。」

ドンキー「おいとくのかよ!?!」

紀葉「作者のコメント。『ガノンドロフです。すごい使いづらい。使いたくもない。見た目も好きになれない。リアルなおっさんは基本的に全員そうだけ。あと亜空のあれ見てもただの外道だし。悪いイメージばかり。』…らしい。」

ドンキー「俺もガノンの野郎は嫌いだが。亜空の使者の件でロボットの間際に亜空爆弾を無理やり起動させたり、ロボットを攻撃させたり、ロボットかわいそうってもんじゃなかったぜ…。」

紀葉「ドンキー…。」

ドンキー「事件の後ボコボコにしてやったけどな。」

紀葉「あ、やっぱり?」

ドンキー「そりゃそうだ。」

紀葉「ふーん…おっと、そろそろ時間だね。」

ドンキー「おお、今回はここまでか。」

紀葉「まだまだ質問受け付けてますよ！」

ドンキー「作者、俺、紀葉以外にでもおkです。」

紀葉「それでは皆さん、ご機嫌よう！さよーならー！」

第1回（後書き）

予想以上にたくさん来て良かったです。

第2回(前書き)

紀葉「ちわーっ！三河屋です！」

ドンキー「あらサブちゃん。」

紀葉「…普通逆だよなw」

ドンキー「てかなんだよこのコントw」

第2回

紀葉「えー、早くも二回目です！今回も三度の飯よりNが好きな私紀葉と！」

ドンキー「任天堂のゴリラ代表、ドンキーでお送りします。」

紀葉「ゴリラ代表ww確かにww」

ドンキー「任天堂のゴリラといえば俺だろ。」

紀葉「まあそうだねwwではさっそく質問に移りたいと思います！」

ドンキー「ガンガンいくぜ！」

紀葉「阪神虎之介さんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「3つ!?!」

紀葉「まず1つ目。バナナ以外で好きなものはある？」

ドンキー「バナナ以外か…。そうだな、みんなでレースしたり乱闘したりすることかな。」

紀葉「みんなと競い合うことが好きなんだね。」

ドンキー「おう。」

紀葉「じゃあ2つ目。今まで出たことがあるゲーム以外で出たいゲ

ームは？」

ドンキー「うん…。思いつかない…。」

紀葉「マリオの本編とかは？」

ドンキー「無理だしどっちかっていうと出たくない。自分の分だけでいっぱいいっぱいだからな…。」

紀葉「そうか…。ちなみに作者は今出てるゲームでも十分ドンキーを見れるからでほしいゲームは特に無いらしいよ。」

ドンキー「まあそうだろうな。」

紀葉「じゃあ3つ目。阪神と読売どっち好き？」

ドンキー「…阪神と読売ってなんだ？」

紀葉「…ああ、そつちには阪神と読売無いんだね…。野球チームのことなんだけどさあ…。」

ドンキー「野球チームか…。俺野球チームでキャプテンになったことあるぜ。」

紀葉「マリオ野球ですね、わかります。ちなみに作者はほとんど野球を見ないらしい。」

ドンキー「どうでもいいな。」

紀葉「そうだね。じゃあ次はMR・ホースさんから作者に2つ質問。

「

ドンキー「やっぱり作者への質問多いな…。」

紀葉「1つ目。けいおん！のキャラで誰が好き？」

ドンキー「あー…あのほのぼのしてるやつか…。」

紀葉「作者は唯が好きらしい。表情が可愛いからって言った。」

ドンキー「表情か…。」

紀葉「表情です。じゃあ2つ目。魔法少女まどか マギカのキャラで誰が好き？」

ドンキー「もう何も怖くない！」

紀葉「おいやめる。作者はなんとなくまどかが好きらしい。」

ドンキー「なんとなくかよ…。」

紀葉「そこまで詳しいわけじゃないらしいからな、作者も。はい次。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「りゅーとさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「俺らに質問しても全然いいのに…。」

紀葉「1つ目。スマブラで好きなトリオはありますか？」

ドンキー「トリオか…色々あるよな。」

紀葉「作者に聞いたら、マリオ、ドンキー、ヨッシーのトリオと、カービィ、メタナイト、デデデのトリオが好きらしい。」

ドンキー「なるほど。」

紀葉「あとトリオじゃないけど、ドンキー、ディディー、ファルコン、オリマーの4人が好きだとも言ってたな。」

ドンキー「やっぱ俺がらみ多いな…。」

紀葉「それからスマブラじゃないけど、ドンキー、ディディー、ラドンキーのトリオが超好きって…。」

ドンキー「なんで言うんだよ…。」

紀葉「言いたかったんだろうよ。よし2つ目。」

ドンキー「はあ…。」

紀葉「トイレのドアを開けたら、作者が『和式トイレとドンキーは俺の嫁ー!』と言いながら襲いかかってきました。どうすればいいですか？」

ドンキー「なwんwじゃwそwりやw w w」

紀葉「作者のコメント。『殴ればいいと思うよ。あと言っとききます

けどりゅーとさん、私洋式派です。それとドンキーは嫁じゃなくて嫁を超越した何かです。』…だって。」

ドンキー「まるで意味がわからんぞ！」

紀葉「そんなこんなでもう時間だ。」

ドンキー「最後意味不なまま終わった…。」

紀葉「ではまた次回。シーユアゲイン！」

第2回(後書き)

やってやった…！俺はやってやったぞおおお！

第3回（前書き）

紀葉「質問見落とすとか作者最近だらしねえな！」
ごめんなさい…。

第3回

紀葉「早くも三回目です。」

ドンキー「感謝の極み。」

紀葉「今回もサクサク行きましょう!」

ドンキー「ほいさきた。」

紀葉「しらさんからドンキーに質問だ。」

ドンキー「k t k r!」

紀葉「ワリオが(しらさんの小説で)スマブラメンバーのこともべって言ってたけどそれでもガノンが一番嫌いなのは変わらない?」

ドンキー「んゝ…そうだな、変わらない。」

紀葉「ほう、それは何故?」

ドンキー「だってしらさんのこの話だろ?」

紀葉「あ、確かにwじゃあこっちで言ったとしたら?」

ドンキー「ワリオがそういうこと言うのは予想できるぞ。だから別にそんな気にならねえよ。」

紀葉「え〜…そうなの？」

ドンキー「てかワリオはさ、たまにニンニクを他の奴に分けようとするんだよ。多分厚意で。いらねえけど。ガノンは全くそういうこともしないからな…。」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ次、しらさんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「お、二人にか。」

紀葉「逃走中にでて逃走成功したら何に使う？ただし、ドンキーはバナナ以外で。」

ドンキー「バナナ以外!？」

紀葉「私は貯金かな。やっぱり少しでも生活を楽にしたいし…。」

ドンキー「うーん…あ、わかった!携帯買う!」

紀葉「…なんで？」

ドンキー「マリオ達と連絡とるのが楽になるから。」

紀葉「なるほど…でも携帯使いこなせるのか？」

ドンキー「大丈夫だ、問題ない。ディディーに手伝ってもらおうから。」

紀葉「ああ、そっすか…。じゃあ次いくよ。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「やっぱりか。」

紀葉「ニコ厨になったきっかけは？」

ドンキー「…きっかけとかあるのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『ネサフしてたらニコ動見つけて、見始めて、そのうちニコ厨になりますたwww』らしい。」

ドンキー「…ネサフ？」

紀葉「ネットサーフィンの略。ようするにインターネット上のサイトを回って回るんだよ。」

ドンキー「へ〜…。」

紀葉「じゃあ次はizumiさんから作者に質問。」

ドンキー「作者ってこう見ると謎だらけに見える。」

紀葉「ニコニコで一番好きなネタは？」

ドンキー「え、好きなネタ？」

紀葉「作者のコメント。『一番好きとか決められないですよwww』

でも最近よく使うのはシャダイネタかな。大丈夫だ、問題ない。らしい。」

ドンキー「一番いい補足を頼む。」

紀葉「ようするに作者はニコニコ全体が好きなんだよ。」

ドンキー「そうかあ……。ん？そろそろ時間じゃね？」

紀葉「おお、ホントだ。じゃあみなさん、また会いまっしょい。アディオス！」

第3回（後書き）

今後は見落とさないようにする！

第4回(前書き)

紀葉「パイの実超うめえ W W W」
ドンキー「バナナ超うめえ W W W」

第4回

紀葉「質問たくさん来るねー。」

ドンキー「そつだなー。」

紀葉「まあ答えよう。」

ドンキー「おつ。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「またかよちくしょう…。くやしいのうwwくやしいのうww」

紀葉「プリキュアで一番好きなキャラと一番嫌いなキャラは？」

ドンキー「両方聞くのか。」

紀葉「作者のコメント。『プリキュア知ってるんですけど、知識としてはまどマギより薄いです。なので特に好きなキャラはいないんですけど、竜斗さんの影響でくるみは嫌いです。』だとさ。」

ドンキー「あ…プリキュアは俺もよくわからん。」

紀葉「私も…。じゃあ次行こうか。」

ドンキー「どんな質問くるんだ…。」

紀葉「りゅーとさんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「おおー！」

紀葉「1つ目。スマブラに参戦になったとき思ったことは？」

俺設定入ります。ご注意ください。

ドンキー「うーん…。最初は無理やり来させられたんだよね…。だからすぐに帰してほしかったんだよ。」

紀葉「そうなの！？…えと…それで…？」

ドンキー「でもDX以降はいろんな奴と戦えることにワクワクしたぜ。…あゝ早くスマブラ新作出ないかな？」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ2つ目行くよ。」

ドンキー「ドンとこいー！」

紀葉「学校の帰り道でネギを振り回すゴルゴに遭遇しました。助けてください。」

ドンキー「…？」

紀葉「どうした？早く答えろよ。」

ドンキー「えーと…じゃあ後でそいつしばいておくので…。」

紀葉「うむ。じゃあ3つ目な。」

ディティールコングレーシングの話です。

紀葉「うーん…遊戯王の王様（闇遊戯）かな？髪型どうなってんのか見たい。」

ドンキー「理由それかよWWW」

紀葉「いいじゃん、すごいじゃん、さかいじゃん。」

ドンキー「古くね？」

紀葉「気にするな。2つ目。一番行きたいアニメの世界はある？」

ドンキー「えー…アニメってよくわかんねーよ…。」

紀葉「そっか。私は遊戯王の世界だな。髪型変な人がどんくらいいるのか見たい。」

ドンキー「だから理由WWW」

紀葉「うえWWWあ、時間だ。」

ドンキー「あー終わった…疲れた…。」

紀葉「じゃあ今回はここまで。チャオチャオ！」

第4回（後書き）

そのあと。

ドンキー「なあディディー…。」

ディディー「んあ？何？」

ドンキー「パピーコパピーコパピーコパピーコパピーコパピーコパピーコパピーコ
パピーコ！パピーコ！！」

ディディー「!？」

ドンキー「…この意味わかるか？」

ディディー「…わけがわからないよ…。」

第5回(前書き)

紀葉「相手のゴールにシュウウウー!!」
ドンキー「超!エキサイティン!!」

第5回

紀葉「WRYYYYY!!最高にハイってやつだ!」

ドンキー「いきなりどうしたww」

紀葉「どうもしないよ。」

ドンキー「そーなのかー…。」

紀葉「じゃさつそく…阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「うい。」

紀葉「『とある魔術の禁書目録』で好きなキャラは?」

ドンキー「(´・`・´)…?」

紀葉「ドンキーはわからないか…。作者は『とあるはよくわかんないです…。』って言ってたから特に好きなキャラはいないんじゃないかな。」

ドンキー「(´・`・´)そうかそうか。」

紀葉「シヨポーンが抜けきってないぞwwまあ次。阪神虎之介さんからドンキーに4つ質問。」

ドンキー「多っ!…!」

紀葉「1つ目。品種改良で赤くなったスイカ味のバナナと普通に怪しいバナナならどっち食べる？」

ドンキー「なんだよその質問…。」

紀葉「で、どっち？」

ドンキー「じゃあ赤いバナナ！」

紀葉「やっぱり怪しいバナナは食べないか。」

ドンキー「うん。てか赤いバナナは64のときに見たことあるぜ。」

紀葉「デイデューのやつか…。」

ドンキー「そうそう。」

紀葉「じゃあ2つ目。ドラえもんのお宝道具で一番好きなものは？」

ドンキー「え？うん…タイム風呂敷かな。」

紀葉「…なんで？タケコプターとかは？」

ドンキー「たるジェットで空は飛べるぜ。」

紀葉「うーん…まあいいや。3つ目。アフガニスタンと北朝鮮ならどっち行く？」

ドンキー「(。(。」

紀葉「…まあどっちも嫌だよね。」

ドンキー「(´・`・´) …おっ。」

紀葉「じゃあ4つ目。ENEOSのエネゴリくんに会ったことある?」

ドンキー「ねーよWWW」

紀葉「ですよねーWWW次はちょっと時期が早い質問だな…。」

ドンキー「(´・`・´)?」

紀葉「MR・ホースさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「(´・`・´)ほう。」

紀葉「1つ目。バレンタインにはもちろんドンキーにチョコバナナをプレゼントしますか?」

ドンキー「ホントに早いな!」

紀葉「作者のコメント。『もちのろんじゃないですかWWW』…ドンキー、どう思う?」

ドンキー「もらえるもんはもらおう主義だ。」

紀葉「え?あぁ、そう。」

ドンキー「曲のタイトルになってるぞWWW」

紀葉「気にするな！じゃあ2つ目。男性作者にチヨコをあげるなら誰がいいですか？」

ドンキー「そんなこと聞くのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『誰か一人選ぶなら竜斗さんですかね。結構お世話になっているので。』…なるほどなあ。」

ドンキー「竜斗さんって確かDK64の小説書いてるよな？」

紀葉「そうそう。それ見て一瞬で気に入ったらしい。それと逃走中に出させてもらったりもしたし…。」

ドンキー「竜斗さんの小説見て自分も書いていこうって思ったんだよな。」

紀葉「そうなんだよ。それじゃあ次、MR・ホースさんからドンキーに質問。」

ドンキー「なんだ？」

紀葉「作者からチヨコバナナをもらったらホワイトデーのお返しは何贈る？」

ドンキー「あ…じゃあバナナ一房。」

紀葉「結構いいもん贈るんだなw」

ドンキー「だってよ…。」

紀葉「え？」

俺設定入りまーす。

ドンキー「俺バレンタインなんて毎年義理チョコ一個しかもらえねえんだよ！」

紀葉「え、ちょ、義理かどうかわかんないじゃん！あと誰から？」

ドンキー「キャンディーからだよ。全員に同じもの配ってたんだ、義理じゃなかったらなんなんだ？」

紀葉「…ドンキーはどう思ってたの？」

ドンキー「キャンディーのことか？普通に仲間だけど。」

紀葉「ナエルーワ…。」

ドンキー「知らんがな。」

紀葉「えーと…ディクシーはやっぱりディディーにあげてんだよね？」

ドンキー「そうだぜ。リア充爆発しろ畜生。」

紀葉「やっぱりイチャイチャしてるのは良いよね…。相手のことだけを一心に…。」

ドンキー「お前何言ってるの？」

紀葉「あ、タイニーは誰にあげてんの？」

ドンキー「タイニーは…ランキーとチャンキーに。」

紀葉「本命は！？どっち！？」

ドンキー「なんでそんな興奮してるんだよ…ランキーのほうだ。」

紀葉「もしか2人はデキちゃってたり！？」

ドンキー「してない。」

紀葉「(´・`・´) ショボーン…。」

ドンキー「両想いではあるんだけど」

紀葉「うほおおお！？それはいわゆるすれ違いだな！王道中の王道！
！イイ！萌える！！」

ドンキー「聞け。タイニーはランキーが自分のこと好きなことに気づいてるよ。ランキーは気づいてない。」

紀葉「そうか…いつか告白してくるのを待ってるんだな…イイ！」

ドンキー「でもランキーへたれだからなあ…。いつするかわかんねーよ。」

紀葉「今後の2人に期待だな…ンフフフWWW」

ドンキー「…猿でもいいのかよ…。」

紀葉「脳内で擬人化するから問題ない！」

ドンキー「……。」「（気持ち悪い……。）」

紀葉「おっと！話しすぎた！」

ドンキー「ホントだ。」

紀葉「じゃあ次回もお楽しみに。ドーンミスィットウ！」

第5回（後書き）

完全に私の趣味です。
反省も後悔もしてません。

第6回（前書き）

紀葉「そんな装備で大丈夫か？」
ドンキー「大丈夫だ、問題ない。」

第6回

紀葉「ネタ系の質問最近多いな。」

ドンキー「正直疲れた…。」

紀葉「頑張れって！北京だって頑張ってるんだから！」

ドンキー「炎の妖精乙。」

紀葉「ともかく行くぞ。りゅーとさんから私とドンキーに3つ質問。」

ドンキー「あ、ちょっと楽だ…。」

紀葉「まず1つ目。ネタ系の質問ぶち込んでおk？」

ドンキー「俺はもうヤダよ！！」

紀葉「私もネタ系の質問答えたいけどなあ…。あと作者が『ドンキーと紀葉と私以外に質問が来ない…。』って嘆いてたし。」

ドンキー「他のやつらにも質問してください。マジで。俺が疲れる。」

紀葉「まあ次の質問…んん！？」

ドンキー「どした？」

紀葉「読めない…。」

ドンキー「どれどれ…なあにこれえ。何語だよ？」

紀葉「ヒンディー語だ。参ったな…ヒンディー語とかわかんないよ…。」

つ翻訳メモ

紀葉「あ、これ翻訳したやつか？」

ドンキー「早く渡せよ…。」

紀葉「じゃあ読むぞ。えーと…それはかなりシャツサイズ猿がないです。ブラ。」

ドンキー「なるほど、全くわからん。」

紀葉「直訳しやがったな…。わかんないからほっとこう。」

ドンキー「そうだな。」

紀葉「3つ目。前回のパピコ語の意味は分かりましたか？」

ドンキー「分かるわけねーだろ！」

紀葉「やっぱりな…。コングクルーの面々に聞いてただろ。」

ドンキー「なんで知ってんだよ!？」

紀葉「なんかさあ、ディディーとかランキーとかからパピーコパピーコ(r)yって何?っていう内容の質問が…。」

ドンキー「そ、そうなのか…。」

紀葉「それで、訳は『お尻にロケット花火を刺すと飛べるって本当ですか?』らしい。」

ドンキー「…なんかいろいろおかしい…。」

紀葉「結論から言うと飛べません。マネしないでください。」

ドンキー「しねーよwww」

紀葉「次行くよー。竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「結構たくさん答えたのにまだ作者に質問あるのか…。」

紀葉「ドンキーを好きになっただきっかけはなんですか?」

ドンキー「そっぴや俺のことは最近好きになっただか言っただな…。」

活動報告参照。

紀葉「作者のコメント。『詳しいことは言えませんが、ネサフがきっかけです。』…あゝ…。」

ドンキー「ネサフかよ。」

紀葉「おつと時間だ。」

ドンキー「うええ!?!」

紀葉「じゃあ次回も見てくださいね!じゃんけんぽん!(パー)う
ふふふふふ!」

第6回(後書き)

そのあと。

ランキー「覚悟できとるんやろつな…ドンキー…。」

ドンキー「ま、待て！話せろ」

ランキー「問答無用やゴラアアアア…！」

ドンキー「ギャアアアアア…！」

タイニー「…。」

チャンキー「タイニー、どうしたウツホ？」

タイニー「え？…ああ、あのね…ランキー、ちゃんと話聞いてなかったのかなって…。」

チャンキー「(´・`・´)？」

第7回（前書き）

紀葉「ドンキーは犠牲になったのだ…。」

第7回

紀葉「えー、前回ドンキーがランキーにフルボッコにされたため、今回ドンキーはいません（自宅療養中）。というわけで、代わりの人を呼んでいます。どうぞ！」

カービィ「ども、ピンクの悪魔ことカービィです。」

紀葉「自覚してるんだWWW」

カービィ「そうだよ。」

紀葉「どつちかっていうと化け物だと思うけど…。」

カービィ「化け物…？違う…。僕は悪魔だ…！」

紀葉「やっぱり言ったWWWまあ質問に答えていくよ。」

カービィ「おk、把握。」

紀葉「それじゃあ、しらさんから私とドンキーに2つ質問。」

カービィ「今回ドンキーいないから、僕が代わりに伝えるよ。」

紀葉「1つ目。マリオとルイージ、どつちが好き？」

カービィ「ドンキーは、『マリオだよ。マリオのほうが強いし、ルイージはビビリだし…マリオのほうが頼りになるからな。』って言うてたよ。僕もマリオのほうが好きだよ。強くてかっこいいから。」

紀葉「私もマリオだな。ルイージは臆病なイメージが…。」

カービィ「こっちの実際ルイージは臆病だよ。」

紀葉「やっぱり？じゃあ2つ目。マリオとワリオ、どっちが好き？」

カービィ「聞くまでもないでしょ…。ドンキーは『マリオに決まってるだろ！ルイージはまだしもなんでワリオと比べるんだよ！』って。当然僕もマリオのほうが好きだよ。」

紀葉「私も。ワリオはなんか好きになれない…。」

カービィ「激しく同意。」

紀葉「じゃあ次は、黄昏（TL）さんからドンキーに質問。」

カービィ「うん。」

紀葉「まだランキーの秘密知ってたりする？」

カービィ「ドンキーに聞いたら、『秘密っていうほどのもんじゃないと思うが、あいつ裁縫が得意なんだよ。尻のところはパッチワークあるだろ？あれ自分で縫ったらしいぜ。』って言った。」

紀葉「そうなの？意外だなあ…。」

カービィ「あまりにもつまらないから、僕いろいろ調べてきたんだ。」

紀葉「!?!」

カービィ「そしたらさ、ひよろいこと気にしてるとか、いつもディ
ディーのイタズラの被害にあってるとか、でも素直にディクシーに
愛情表現してるディディー見て自分もタイニーにあんなふうにでき
たらなあ…って思ってるとか…。」

紀葉「それ以上は殺されるぞ!?!」

カービィ「僕を誰だと思ってるの?」

紀葉「それ死亡フラグだから。ヤバいから。てか最後のほうはなん
で分かるのさ。」

カービィ「ネスに協力してもらったんだよ。」

紀葉「なんて奴だあ…!!」

カービィ「まだ質問あるよね?」

紀葉「うん…りゅーとさんからディディーに4つ質問。初めて私と
ドンキーと作者以外にきたな!」

カービィ「ディディーにもちゃんと聞いてきたよ。」

紀葉「1つ目。スマブラに出ると聞いて思ったことは?」

やっぱ俺設定。

カービィ「X組は亜空の使者のときに無理やり来させられたから、

最初はすぐ帰りたかったみたいだよ。ディディーも例外じゃないよ。」

紀葉「そうなんだ…今は？」

カービィ「今は乱闘が楽しいってさ。勝数少ないけど。」

紀葉「あんま勝ててないのかwwじゃー次。亜空の使者でフォックスとファルコと一緒に行動してたけど、2人とは仲良いの？」

カービィ「うーん…2人ともそれなりに仲良いけど、マリオファミリー以外だとファルコンとかオリマーとかのほうが仲良いみたいだよ。」

紀葉「ふーん…。巷じゃ桃太郎トリオとか言われてるよね？」

カービィ「まあでもあんまり一緒にいるところは見ないけどね…。」

紀葉「そうかあ…じゃあ次行くよ。」

カービィ「アイサー。」

紀葉「パピーコパピコパピコパピコパピコー？」

カービィ「日本語でok。」

紀葉「こつという質問なんだよ…ディディーに聞いてきた？」

カービィ「まあ聞いてきたけどさ…。」『日本語喋れ！』って怒鳴られた。」

紀葉「ドンキーに以前そういう質問きてディディーに意味聞いたみたいだから…イライラしたのかな。カービィはどう思う?」

カービィ「パピパピパーピコパピコパピコー。ってところかな。」

紀葉「…もう次行くよ。次の質問は写真の感想を言うものです。まずはこれを…。」

犬のウンコを踏んでありえない表情をするタブーの写真。

カービィ「これはWWWWひどいWWW」

紀葉「ホントだねWWWなんて言ってた?」

カービィ「『感想聞く相手オイラじゃなくてもいいだろこれ!!』って。写真についてはノーコメントだった。」

紀葉「まあ何も言いたくないだろうねWWW」

カービィ「ちなみにドンキーに見せたら、『これ撮った奴ある意味天才じゃね?』って言ってた。」

紀葉「あ、確かにWああそれと、前回のヒンディー語の訳が送られてきたよ。」

カービィ「それはシャツ(r)yって奴だよな?」

紀葉「そう。正しいのは、『このお猿さん、シャツのサイズがかなり違います。ブラジャーに着替えてください。』だそうだ。」

カービー「ブラじゃないよー大胸筋サポーターだよー！」

紀葉「なんか懐かしいwwこのお猿さんってディディーかな？ドンキーはネクタイだけだし…。」

カービー「そうだと思うよ。ディディーに言ったら、『なんでブラジャーなの？馬鹿なの？死ぬの？てかサイズ合ってるし。』というふうにマジレスしてきた。」

紀葉「うわー…もっと気のきいたコメントなかったのかな？」

カービー「わかんない。てか時間だよ。」

紀葉「おおホントだ。それじゃあこの次もサービスサービスウ！」

第7回（後書き）

そのあと。

カービィ「結構面白かったな…。」

ポンポン

カービィ「ん？」クルッ

ランキー「（ ^ ^ ）」

カービィ「…！？な、なにをするきさまー！」

¥デデーンノ

第8回（前書き）

紀葉「おい、誰かカービィの居場所を知らんか？」
自宅療養中です。

第8回

紀葉「あー…ドンキーがまだ復帰できず…カービィも諸事情で出られないということ…：代わりの代わりを呼びました。ではどうぞ。」

マリオ「俺はマリオだ。よろしく！」

紀葉「うひょー！本物のマリオだ！あとでサインくれ！」

マリオ「OK、わかったよ。」

紀葉「それじゃあさっそく…：izumiさんから私とドンキーに3つ質問。」

マリオ「ドンキーの分は俺が代わりに答えるからな。」

紀葉「1つ目。ストレス解消のためにすることは？」

マリオ「ドンキーの場合はもっぱら乱闘だな。スマブラ以外だとスポーツとかだ。」

紀葉「そーなのかー。私はやっぱりゲームだな。」

マリオ「噂には聞いていたがここまでゲーム好きとは…。」

紀葉「サーセンwwじゃあ2つ目。オリキャラのことどう思うっ？」

マリオ「ドンキーに聞いてきたが、『紀葉はなんか変人だな。他の奴らは会ったことないから詳しいことはよくわからん。』だそうだ。」

「
紀葉「変人って…まあいいや。ちよつと私から見た普通（ryメン
バーをまとめてみたよ。」

千樹 ちよつと説教くさいお兄ちゃん

椀 美人な義姉

杉助 賑やかな奴

希華 仲の良い後輩

希菜 妹思いの良いお姉さん

希音 ヤンデレ怖い…

桜太郎 大親友

銀杏 兄弟仲良くね

百合 ぶつちやけ苦手

木 かなり気が合う

マリオ「ふむふむ…なるほど。」

紀葉「よし、3つ目。Sな人とMな人がやってきました。どうする
？」

紀葉「1つ目。カービイは何味ですか？」

マリオ「…カービイに聞いたら『塩味です。嘘です。自分じゃわかりません。』って言うって…その後ヨッシーが来て、『良かったら調べましょうか？』って言ったからとりあえず表面だけ舐めてもらったらトマトっぽい味がしたらしい…。」

紀葉「マジか…桃味かと思っただけだな…。」

マリオ「食おうとするのはおすすめでできないな。逆に食われる。」

紀葉「おお怖い怖いwwwじゃあ2つ目。一番好きな食べ物は何？」

マリオ「トマトらしい。カービイのところじゃマキシムトマトが全回復アイテムだからかな。」

紀葉「トマトばかり食ってるからトマト味なの？」

マリオ「知らんがな。」

紀葉「…3つ目。カービイの血は何色ですか？」

マリオ「赤だ。さっきの味の話のとき、カービイが気持ち悪いつて言っただけヨッシーが怒ってカービイを殴ったんだ。そのときなんか赤い液体が出て…。」

紀葉「普通に赤なんだ…。じゃあ4つ目。今まで出たことあるゲーム以外で出たいゲームは？」

マリオ「ああ、なんか俺のゲームに出たいってかなり言ってたな。」

ドラクエのキャラとかソニックが俺のゲームで共演できるのになんで自分ではできないんだって…。」

紀葉「ぶっちゃけFFとかいいからさ、もっとマリオキャラ出してよ。」

マリオ「そう言われても…。」

紀葉「うーん…まあ次。ドラえもんの秘密道具で好きなものは？」

マリオ「本人に聞いたらタイムマシンって言ってた。」

紀葉「そ…そっすか…。あ、時間。」

マリオ「おお、もう終わりか。」

紀葉「次回はどんな質問がくるのか…乞うご期待！」

第8回（後書き）

そのあと。

紀葉「念願のマリオのサインを手に入れたぞ！」

千樹「…。」

そう、関係ないね

殺してでも奪いとる

譲ってくれ、頼む！

紀葉「…欲しくないの？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8862y/>

色々雑談部屋

2011年12月3日00時47分発行